



## 平成29年6月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成29年5月12日

上場会社名 株式会社エム・エイチ・グループ  
 コード番号 9439 URL <http://mhgroup.co.jp/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 佐藤 文彦

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 小林 繁之

TEL 03-5411-7222

四半期報告書提出予定日 平成29年5月12日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成29年6月期第3四半期の連結業績(平成28年7月1日～平成29年3月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年6月期第3四半期	1,388	8.5	29		42		61	
28年6月期第3四半期	1,279	1.1	14	72.7	14	75.0	18	20.5

(注) 包括利益 29年6月期第3四半期 60百万円 ( %) 28年6月期第3四半期 18百万円 ( 21.7%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年6月期第3四半期	5.41	
28年6月期第3四半期	1.65	

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
29年6月期第3四半期	1,588	652	41.1	57.57
28年6月期	1,582	747	47.2	65.94

(参考) 自己資本 29年6月期第3四半期 652百万円 28年6月期 747百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年6月期		0.00		3.00	3.00
29年6月期					
29年6月期(予想)				0.50	0.50

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成29年6月期の連結業績予想(平成28年7月1日～平成29年6月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,900	9.0	29	65.8	29	63.9	14	268.0	1.24

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

#### 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
以外の会計方針の変更 : 無  
会計上の見積りの変更 : 無  
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	29年6月期3Q	11,332,100 株	28年6月期	11,332,100 株
期末自己株式数	29年6月期3Q	48 株	28年6月期	48 株
期中平均株式数(四半期累計)	29年6月期3Q	11,332,052 株	28年6月期3Q	11,332,052 株

四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

#### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 4「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(3) 追加情報	5
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	6
4. 四半期連結財務諸表	7
(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	9
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	9
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	10
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(セグメント情報等)	11
(重要な後発事象)	12

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府の経済政策や日本銀行の金融政策の下、雇用・所得環境は緩やかな回復傾向にあるものの、新興国の景気下振れ、英国のEU離脱問題、米国新政権の動向や東アジア諸国の政情への不安感等により、依然として先行き不透明な状況が継続しております。

当社グループが属する美容業界におきましても、先行きの不安感などに起因する顧客の節約志向は少なからず影響を及ぼしており、それは来店周期の長期化に表れ、他方では低価格サロンの増加により店舗間の競争は激化しております。また、美容業界はオーバーストア状態にあるなかで美容専門学校生は減少傾向にあり人材確保が業界全体の課題であり、経営環境は厳しい状況にあります。しかしながら一方では、男性顧客の美容室の利用率の増加、アジアをはじめとする海外での日本の美容サービス・商品に対するニーズは高まっております。そして近年髪に悩みを抱える顧客は増加傾向にあり、その期待に応えることができる信頼と専門性を備えたサロンの需要は増加することが見込まれます。

このような状況のもと、当社グループは、安易な安売り競争に走ることなく、従来通り教育により高い技術を有するスタッフを育成し、質の高いサービスを提供し続けることに重点を置いております。選別消費の傾向が強まるなか、当社がターゲットとする顧客層においては、ヘアケアサービス、ホームケア製品やヘアデザインの再現性を高めるスタイリング製品の購入件数増加など客単価は着実に上昇しております。しかし今後収益性を高める上では、リピート回数を増やし顧客として定着する割合を向上させなければなりません。こちらは、従前よりSPC（サービス・プロフィット・チェーン）のフレームワークに基づき、従業員満足度と顧客満足度を同時に高めることにより店舗の収益力を更に向上させるプログラムに取り組んでおり、今後もこれを継続してまいります。そして近年当社グループの新たな取り組みであるメンズ専門ヘアサロンは、既存のモッズ・ヘアサロンに比べ客単価は低いものの新たな顧客層の獲得につながっております。このメンズ専門ヘアサロンは直営サロン・BSサロンを問わず需要が高まることを見込まれます。また、業界全体においては美容師の人材不足により大型サロンを維持できず閉店するサロンや後継者不在のため閉店するサロンが増加しております。これは当社のBSサロンにおいても例外ではありません。当社グループのBSサロン運営事業においては、業界を取り巻く環境を見極め戦略的な新規出店を実現することが重要な課題であります。また、前事業年度より収益性が低下している直営サロン運営事業の収益改善は緊急の課題であります。これらの課題を解決するために一時的に費用が先行して発生するものの、直営の大型店においては本年2月3日にモッズ・ヘア新宿サウス店のリニューアルオープンを実施するなど抜本的な取り組みによってフラッグシップの発信力を高めると共に、当社グループの事業の根幹であるモッズ・ヘアサロン運営事業の再建に注力しております。

当第3四半期連結累計期間においては、平成28年4月にグループインしたアーツ(株)が売上高及び営業利益に貢献する一方、国内の契約が終了した特定のBSオーナーに対する債権の貸倒引当金繰入額5,735千円を販売費及び一般管理費に計上するとともに、台湾において現地のフランチャイジーのうち1社の撤退に伴い貸倒引当金繰入額15,000千円を営業外費用として計上いたしました。また、特別損失として当社の100%子会社である台湾摩法股份有限公司の株式に係る関係会社株式評価損5,775千円、新宿サウス店の全面リニューアル及び上大岡店の移転リニューアルに伴う固定資産除却損3,799千円を計上いたしました。なお、当社グループは台湾事業の再構築に向け新たな現地事業パートナーの選定を進めております。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高1,388,127千円（前年同期比8.5%増）、営業損失29,371千円（前年同期は、営業利益14,835千円）、経常損失42,468千円（前年同期は、経常利益14,922千円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は、61,341千円（前年同期比は、親会社株主に帰属する四半期純利益18,652千円）となりました。

セグメント別の状況については以下のとおりであります。

（直営サロン運営事業）

日本全国に展開するBSサロン（フランチャイズサロン）のフラッグシップサロンとして、首都圏主要地域を中心に直営サロン16店舗（モッズ・ヘアサロン15店舗、その他1店舗）を展開しております。当第3四半期連結累計期間におきまして、モッズ・ヘア北山店を閉店いたしました。また、本年2月3日にモッズ・ヘア新宿サウス店のリニューアルオープンを、3月3日にはモッズ・ヘア上大岡店の移転リニューアルオープンを実施いたしました。

当第3四半期連結累計期間の業績につきましては、前事業年度においてBSサロンより直営サロンへ転換したモッズ・ヘア吉祥寺店及びモッズ・ヘア自由が丘店、並びに前事業年度において新規オープンしたモッズ・ヘア高松瓦町店及びモッズ・ヘアMEN中野店の4店舗の増加によりセグメント売上高は増加いたしました。しかしながら、これら4店舗の収益性は前事業年度に比べ改善しているものの、いずれも営業損失であったこと、また既存店においてはスタイリストの離職等により一時的に収益性が低下し、特に大型店での影響が顕著であったため、これらの営業損失を補うには至らずセグメント利益は営業損失となりました。

直営サロン運営事業の当第3四半期連結累計期間の売上高は、807,912千円（前年同期比1.5%増）、セグメント損失は、46,433千円（前年同期は、セグメント損失19,789千円）となりました。

（BSサロン運営事業）

「モッズ・ヘア」では、本部、加盟店という従来のフランチャイズ関係ではなく、共に一つのブランドをシェアするという意味で、ブランドシェアサロン、BSサロンと呼んでおります。当第3四半期連結累計期間において、国内におきましては14店舗が閉店いたしました。一方、海外におきましては、韓国ではオープン3店舗、閉店2店舗、台湾ではオープン1店舗、閉店1店舗、中国では10店舗をオープンいたしました。その結果、当第3四半期連結会計期間末日現在におきまして、国内51店舗、韓国20店舗、台湾3店舗及び中国11店舗の計85店舗となっております。

当第3四半期連結累計期間の業績につきましては、店舗設備に係る売上高を伴う国内のモッズ・ヘアサロンの新規出店あるいはリニューアルがなくリース売上等が発生しなかったこと（前年同期間はリース売上50,435千円）、また、国内の貸倒懸念債権に対する貸倒引当金繰入額5,735千円を計上した結果、BSサロン運営事業の当第3四半期連結累計期間の売上高は、354,522千円（前年同期比16.3%減）、セグメント利益は、144,483千円（前年同期比4.2%減）となりました。

（ヘアメイク事業）

当社は、「モッズ・ヘア」の原点であるフランス・パリのスタジオワーク専門のヘアメイクチームのプロフェッショナル精神を引き継いだ「モッズ・ヘア」ヘアメイクチームを有しております。

当社のヘアメイクチームは、ヘアメイクアーティストのエージェンシーとして「パリコレクション」や「東京コレクション」等への参加やCM・ファッション雑誌など年間2,000件を超える媒体を手掛けるなど、国内及び海外で高い評価を得ております。

ヘアメイク事業につきましては、既存のスタジオ部門及びブライダル部門が堅調に推移したことに加え、平成28年4月より主にテレビキー局のヘアメイクを手掛けるアーツ欄が加入したことにより、セグメント売上高及びセグメント利益は共に大幅な増加となりました。

ヘアメイク事業の当第3四半期連結累計期間の売上高は、269,909千円（前年同期比87.1%増）、セグメント利益は、21,182千円（前年同期比54.0%増）となりました。

（美容室支援事業）

当社グループでは、日本国内のモッズ・ヘアサロンの事業展開を通じて、様々なスケールメリットが創出されます。それをサービス化し、クレジット手数料軽減サービスなどを一般のサロンに提供する美容室支援事業を行っております。

また、本年6月より株式会社ティビィシィ・スキヤットと提携し、美容サロン向けICTシステムにおけるPOSレジ顧客管理システムとクレジットカード決済に関する相互販売協力を展開いたします。これにより美容室支援事業の事業規模拡大を図ってまいります。

美容室支援事業の主力であるクレジット手数料軽減サービスの契約件数、取扱高は堅調に推移しましたが、営業体制の強化に係る費用が先行して発生したため、当第3四半期連結累計期間の売上高は、51,976千円（前年同期比1.9%増）、セグメント利益は、14,324千円（前年同期比21.5%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末の資産につきましては、前連結会計年度末に比べ5,852千円増加し、1,588,239千円となりました。主な要因としましては、現金及び預金の増加12,824千円、未収入金の増加19,524千円、貸倒引当金の増加20,541千円などによるものであります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末の負債につきましては、前連結会計年度末に比べ100,738千円増加し、935,848千円となりました。主な要因としましては、社債の増加100,000千円などによるものです。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末の純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ94,886千円減少し、652,391千円となりました。主な要因としましては、親会社株主に帰属する四半期純損失61,341千円、配当金の支払33,996千円などによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成29年6月期の通期の業績予想は、平成28年8月16日付「平成28年6月期 決算短信」にて公表いたしました業績予想から変更はありません。

なお、本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

## 2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

### (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

連結子会社であった株式会社エム・エイチ・マーケティングは、平成28年11月1日付で、連結子会社である株式会社アトリエ・エム・エイチを存続会社とする吸収合併を行い、同社は解散いたしました。

この結果、当社グループは、当社及び子会社3社により構成されることとなりました。

### (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

### (3) 追加情報

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を第1四半期連結会計期間から適用しております。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。



## 4. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	323,746	336,571
売掛金	122,508	126,873
商品	62,840	72,950
未収入金	359,826	379,351
繰延税金資産	10,239	10,239
その他	96,820	97,861
貸倒引当金	△30,783	△36,324
流動資産合計	945,199	987,523
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	378,958	348,627
減価償却累計額	△238,724	△201,016
建物及び構築物(純額)	140,233	147,611
工具、器具及び備品	76,068	84,017
減価償却累計額	△36,795	△40,719
工具、器具及び備品(純額)	39,272	43,298
その他	540	540
減価償却累計額	△380	△397
その他(純額)	159	142
有形固定資産合計	179,665	191,052
無形固定資産		
のれん	133,129	121,284
その他	4,185	3,158
無形固定資産合計	137,314	124,442
投資その他の資産		
投資有価証券	5,318	5,286
関係会社株式	15,214	9,438
差入保証金	182,850	172,863
リース投資資産	62,103	53,755
その他	55,220	56,800
貸倒引当金	△500	△15,500
投資その他の資産合計	320,207	282,645
固定資産合計	637,187	598,140
繰延資産	-	2,576
資産合計	1,582,387	1,588,239

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	15,452	22,217
短期借入金	100,000	100,000
未払金	450,922	468,414
未払費用	33,516	37,460
未払法人税等	7,871	4,246
未払消費税等	16,675	14,447
ポイント引当金	3,851	3,527
賞与引当金	-	990
その他	30,837	34,457
流動負債合計	659,128	685,761
固定負債		
社債	-	100,000
長期末払金	34,584	33,752
受入保証金	116,959	92,769
資産除去債務	11,628	11,692
退職給付に係る負債	9,209	7,072
役員退職慰労引当金	3,600	4,800
固定負債合計	175,981	250,087
負債合計	835,109	935,848
純資産の部		
株主資本		
資本金	500,000	500,000
資本剰余金	129,496	129,496
利益剰余金	118,025	22,688
自己株式	△13	△13
株主資本合計	747,508	652,171
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△231	219
その他の包括利益累計額合計	△231	219
純資産合計	747,277	652,391
負債純資産合計	1,582,387	1,588,239

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年7月1日 至平成28年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年7月1日 至平成29年3月31日)
売上高	1,279,941	1,388,127
売上原価	942,167	1,042,029
売上総利益	337,774	346,098
販売費及び一般管理費	322,939	375,469
営業利益又は営業損失(△)	14,835	△29,371
営業外収益		
受取利息	265	132
為替差益	-	781
助成金収入	800	600
その他	448	804
営業外収益合計	1,514	2,319
営業外費用		
支払利息	44	384
為替差損	1,371	-
貸倒引当金繰入額	-	15,000
その他	10	31
営業外費用合計	1,426	15,415
経常利益又は経常損失(△)	14,922	△42,468
特別利益		
短期売買利益受贈益	151,422	-
特別利益合計	151,422	-
特別損失		
関係会社株式評価損	6,455	5,775
固定資産売却損	182	-
固定資産除却損	-	3,799
役員退職功労金	125,000	-
特別損失合計	131,638	9,575
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	34,706	△52,043
法人税、住民税及び事業税	9,244	9,297
法人税等調整額	6,808	-
法人税等合計	16,053	9,297
四半期純利益又は四半期純損失(△)	18,652	△61,341
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	18,652	△61,341

四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年7月1日 至平成28年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年7月1日 至平成29年3月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	18,652	△61,341
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△266	450
その他の包括利益合計	△266	450
四半期包括利益	18,386	△60,890
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	18,386	△60,890
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## I 前第3四半期連結累計期間(自平成27年7月1日至平成28年3月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	直営サロン 運営事業	BSサロン 運営事業	ヘアメイク 事業	美容室支援 事業	計		
売上高	795,958	423,348	144,263	51,005	1,414,575	△134,634	1,279,941
セグメント利益 又は損失(△)	△19,789	150,858	13,752	18,251	163,073	△148,238	14,835

(注) 1. セグメント利益の調整額△148,238千円には、棚卸資産の調整額△539千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△147,699千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない全社的一般経費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## II 当第3四半期連結累計期間(自平成28年7月1日至平成29年3月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	直営サロン 運営事業	BSサロン 運営事業	ヘアメイク 事業	美容室支援 事業	計		
売上高	807,912	354,522	269,909	51,976	1,484,320	△96,193	1,388,127
セグメント利益 又は損失(△)	△46,433	144,483	21,182	14,324	133,558	△162,929	△29,371

(注) 1. セグメント利益の調整額△162,929千円には、棚卸資産の調整額395千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△163,325千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない全社的一般経費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

(重要な後発事象)

重要な子会社の設立

当社は、今後加速することが見込まれる中国国内の出店において、安定した技術とサービスを提供するための技術教育、ヘアスタイルの再現性を高めるための自社製品の現地流通を促進するために、以下のとおり100%子会社を設立いたしました。

- (1) 会社名 慕姿美髪（上海）有限公司
- (2) 所在地 中華人民共和国上海市
- (3) 代表者 朱峰 玲子
- (4) 事業内容 日本からのmod's hairプライベートブランド商品の中国輸入および中国国内の流通、  
現地mod's hairサロンスタッフへの技術教育
- (5) 資本金 3,000,000人民元（約48,870千円 1人民元 約16.29円、なお資本金は登録資本金であり実際の  
払込額とは異なります。）
- (6) 設立年月日 平成29年4月1日
- (7) 出資比率 当社100%